

WHITE PAPER

非エンジニアのためのClaude実践ガイド

中小企業の経営者のためのClaude 導入 完全ガイド 2026年版

ROI・リスク・進め方・体制 — 意思決定者のための30分の地図（2026年6月最新）

発行：2026年6月 / 対象：中小企業の社長・役員（非エンジニア）

Claude Works（クラウドワークス）

非エンジニアのためのClaude実践メディア [claudelab.jp](#)

あなたが従業員10~100名の会社の社長か役員で、コードは一行も書けないけれど「うちもそろそろAIをちゃんと入れないとまずい」と感じているなら、このガイドはあなたのために書きました。技術の解説書ではありません。**ROI・リスク・進め方・体制**という、意思決定者が本当に知りたい4つの問いに、30分で答えを出すための地図です。一人称は「私」、専門用語が出たら必ず1行で言い換えます。数字はすべて2026年6月時点の出典付きです。

このガイドで答える4つの問い

ROI=いくらか
り何が浮くか

+

リスク=情報漏洩
をどう抑えるか

+

進め方=90日で何
をするか

+

体制=誰が旗を振
るか

1. なぜ今、経営者自身がClaudeを理解すべきか（30秒で要点）

まず、遅れているのは現場ではありません。経営層です。

総務省の令和7年版情報通信白書によると、**2024年度時点で生成AIの活用方針を定めている企業は49.7%**にとどまります。半分の会社がまだ方針すら決めていない。そして企業が挙げる最大の課題は『適切な活用方法がわからない』ことでした（出典：総務省 令和7年版情報通信白書、2026年6月時点）。

さらに踏み込んだデータがあります。2026年1月に管理職1,008名を対象に行われた調査では、生成AIを『使いこなせない層』の内訳が、**課長/リーダー職29.3%・経営層26.8%・一般職25.6%**。つまり一般社員より、課長以上・経営層のほうが習熟が遅れているのです（出典：コーレ株式会社調査、2026年1月実施、commercetick経由・二次紹介・2026年6月時点）。

これは責める話ではなく、チャンスの話です。多くの社長は「詳しい部下に任せればいい」と考えます。ですが、地図を持たない人が指揮を執ると、現場は「とりあえず全員にアカウントを配る」で止まり、誰も使わないまま放置される。**経営者が30分で全体像を掴んでおくことが、PoC（試験導入）止まりや放置を防ぐ最短ルート**になりやすい、というのが私の見立てです。断定はしません。ただ、データは「経営層の習熟が鍵」を示しています。

この章のまとめ（即決3点）

1. 半数の企業が方針未定。動けば差がつく局面である
2. 遅れているのは現場ではなく経営層・管理職

3. だからこそ、社長が30分で地図を持つことに価値がある

2. 2026年6月時点のClaude全体像を、専門用語ゼロで

覚えることは多くありません。「2つのプロダクト+1つの頭脳」だけです。

Claudeとは。 Anthropic社が提供するAI。ChatGPTと同じ「文章で指示すると返してくる」タイプですが、長い資料の読み込みと、手順の長い作業を任せる用途で評価されています。ChatGPTとの違いを一言でいうなら「どちらも優秀。Claudeは長文の業務と自動化に強い」程度の理解で経営判断には十分です。

押さえるべきプロダクトは2つ、そしてその「頭脳」が1つ。非エンジニアの言葉に翻訳します。

Claudeの全体像（経営者向け翻訳）

Before



After

製品	一言でいうと	誰向けか
Claude Code	文章・資料・データ作業を自動化する道具。「ターミナル」（黒い画面に文字で指示する操作画面）を使う	多少PCに慣れた担当者。Pro以上の有料プランに含まれる
Claude Cowork	ターミナル不要で動く自律エージェント（自分で考えて作業を進めるAIの相棒）。 2026年4月に正式提供開始 、Mac/Windows対応、M365・Google・Slackと連携	非技術職向け 。経理・人事・総務・マーケティングの担当者

経営者が押さえるべきは「Cowork=非エンジニアでも使える相棒が、すでに正式版で出ている」という事実です（出典：Anthropic公式、2026年6月時点）。

頭脳=モデルの選び方。 ここは割り切ってください。現行は **Opus 4.8 / Sonnet 4.6 / Haiku 4.5** の3つ。社長が知るべきは1行だけです。**迷ったらまずOpus 4.8**（最上位モデル）。速さや安さを詰める話は、導入後に担当者が調整すればよい領域です。

この章のまとめ（即決3点）

1. 覚えるのは『Code=自動化』『Cowork=非エンジニアの相棒』の2つ

2. Coworkは2026年4月に正式版。非技術職がいま使える

3. モデルは『迷ったらOpus 4.8』だけ覚える

3. いくらかかるのか：経営判断のための料金とROIの考え方

価格表は複雑に見えますが、社長の判断は**3択**で済みます。

まずこの3択に絞る

プラン	料金（2026年6月時点・公式）	想定
Pro	月20ドル（年払いなら実質月17ドル）	まず社長・推進担当が個人で試す
Team	標準25ドル/席（年払い20ドル）／プレミアム125ドル/席（年払い100ドル）	5～150名 のチーム導入。データを学習に使わない設定がデフォルト
Enterprise	要問い合わせ（月20ドル/席＋API使用料が二次情報で報告。条件は要営業相談）	50名超・セキュリティ要件が厳しい大規模

（出典：claude.com/pricing、2026年6月時点。Enterpriseの内訳は二次情報に基づくもので、契約条件で変動するため要問い合わせ）

ROIの語り方は、社内稟議を通すうえで決定的に重要です。順番はこうです。

- 導入前の業務コストを測る**（その作業に月〇時間かかっているか）
- 導入後と定量比較する**（同じ作業が月〇時間に減ったか）
- 人件費単価で金額換算する**（浮いた時間 × 時給）

6カ月の短期で最も示しやすい効果は**工数削減**です。社内説明では「人を減らす」ではなく『**再配分可能時間の創出**』と表現すると、現場の抵抗が下がります（出典：ainow.ai、2026年6月時点）。競合優位やリテラシー向上はROIと別枠で報告するのがコツです。

肌感の試算を1つ。**月20ドル（2026年6月時点で約3,000円。為替で変動します）のプランで、毎日30分の手作業が1人分消えれば、ほぼ確実に元が取れます。** 月20営業日 × 0.5時間 = 月10時間。時給2,000円換算で月2万円分。3,000円の投資が2万円の時間を生む、という単純な絵です（あくまで仮定を置いた概算）。これなら稟議を待たず、社長判断で1席だけ始められます。

この章のまとめ（即決3点）

1. まずPro／Team／Enterpriseの3択に絞る
2. 投資判断は『浮いた時間 × 人件費単価』で語る
3. 月3,000円で毎日30分浮けば、元は取れる計算になる

4. 経営者が一番不安な『情報漏洩リスク』をどう抑えるか

不安の正体は、実は2つしかありません。怖がる前に、正体を見ましょう。

1. **入力したデータが学習に使われること**（入れた情報がAIの賢さの材料にされる懸念）
2. **シャドーAI**=従業員が会社は無許可で勝手なAIツールを使うこと（無許可ツール、の意）

この2つに、即効性のある対策が3点あります（出典：NTT、2026年6月時点）。

情報漏洩の対策3点セット

①法人サービスの学習オプトアウト（学習拒否）設定

+

②IT管理者が一括適用できる管理コンソール

+

③入力禁止情報リスト+利用ガイドライン

不安	解決の道筋
学習に使われる	法人プランの 学習オプトアウト（学習拒否）設定 で対応する。 ClaudeのTeamはデフォルトでユーザーデータをモデル学習に使わない設計 （公式確認済み・2026年6月時点）。Enterpriseも学習に関する設定を管理者側で統制できる
誰がどう使っているか見えない	IT管理者が一括で設定を適用できる 管理コンソール （管理画面）で統制する
うっかり機密を入力	入力禁止情報リスト （顧客名・口座・未公開情報など）と 利用ガイドライン を1枚作る

重要なのは、怖がって全面禁止にしないことです。禁止はシャドーAIを増やすだけで、リスクはむしろ地下に潜ります。法人プラン+ガイドラインで「安全に使える道」を用意するほうが、結果として漏洩は減らせます。

この章のまとめ（即決3点）

1. 不安は『学習』と『シャドーAI』の2つだけ
2. Teamは初期設定で学習に使わない。Enterpriseも管理者側で統制できる
3. 全面禁止より、法人プラン+ガイドラインで塞ぐ

5. 失敗する会社・成功する会社：定着の分かれ目

成否を分けるのは、ツールの性能ではありません。**運用**です。

典型的な失敗は『**導入したが使われない**』。理解のないまま全社にアカウントを配り、放置されるパターンです（出典：aibrainpartners、2026年6月時点）。一方、定着する会社には共通点があります。

失敗する会社 vs 成功する会社

Before



After

成功する会社の5要素：

- 推進担当（チャンピオン）を選任する**…旗を振る一人を決める
- 業務テンプレを配布する**…「このプロンプト（指示文）をコピーして使って」を渡す
- 小さな成功事例を共有する**…1部署の「3時間が30分になった」を社内に見せる
- 部署別ユースケースを設計する**…経理・人事・営業それぞれの使い道を用意する
- KPIを可視化する**…浮いた時間・件数をダッシュボードで見せる

ガイドラインにもコツがあります。**禁止事項だけでなく、『推奨する業務』と『効果的なプロンプト例』まで書くこと**。「やってはいけないこと」だけのルールは人を萎縮させますが、「これに使うといい・この文をコピーして」まで書くと、迷わず使い始められます。

この章のまとめ（即決3点）

1. 失敗は『配って放置』。成否はツールでなく運用
2. 推進担当を1人決めることがすべての起点

3. ガイドラインは禁止だけでなく推奨業務とプロンプト例まで書く

6. 90日 導入ロードマップ（社長が今日決める3つ）

ここまでの地図を、行動に落とします。社内AI展開のベストプラクティスは「段階展開」です（出典：exawizards、2026年6月時点）。

90日 導入ロードマップ

フェーズ	期間	やること
Phase 1	0～30日	経営トップ自身が業務で使う姿を見せる+特定の1部署でQuick Win（小さな成功事例）を作る
Phase 2	31～60日	効果KPI（時間・品質・満足度）とガバナンス（機密・権限・ログ・費用）の両方を、次に進む合格条件として置く
Phase 3	61～90日	PoC止まりを避け、業務プロセスごと再設計して他部署へ横展開する

なお、この研修・導入コストは公的助成で大きく圧縮できる可能性があります。厚生労働省の人材開発支援助成金『事業展開等リスクリング支援コース』は、条件を満たせば**中小企業で経費の最大75%+訓練中の賃金1時間1,000円**が助成されます。ただし**訓練開始の1か月前までの計画届が必須**で、**令和8年度末（2027年3月31日）までの時限措置**です（出典：厚労省/isvd、2026年6月時点。要件・採択は案件ごとに変動するため、申請前に管轄労働局で必ず確認してください）。期限が近いので、使うなら早めの設計が要ります。

この章のまとめ（社長が今日決める3つ）

1. **自分が使う**…まずPro1席を社長自身が触る
2. **最初の1部署**…どこでQuick Winを作るか
3. **3か月後の合格ライン**…Phase2のゲートに置くKPIは何か

地図は手に入った。次は「自社版」をどう引くか

ここまでで、ROI・リスク・進め方・体制の全体像は掴めたはずですが、本当に難しいのはこの先です。

あなたの会社の業種・人数・予算で、最初の1部署をどこにするか。Quick Winをどの業務で作るか。3か月後の合格ラインをどの数字に置くか。これは一般論では決められません。経理が10名の会社と、営業が中心の会社では、最初に勝つべき場所がまったく違います。助成金を使うなら、計画届の期限から逆算した設計も要ります。

私は、この90日ロードマップを**御社の業種・人数・予算に合わせて一緒に引く**ことをお手伝いしています。30分の相談では、たとえば「最初の1部署をどこにするか」「合格ラインに置くKPIの候補」を、その場で一緒に具体化します。「地図は分かった、次は自社版が欲しい」と感じた今が、設計を始める最適なタイミングです。

無料30分のオンライン相談で、御社の「最初の1部署」と「合格ライン」を一緒に具体化しましょう。売り込みはしません。まずは地図に、あなたの会社の地名を書き込むところから始めます。

▶ **無料30分オンライン相談を予約する** 予約：<https://app.spirinc.com/patterns/availability-sharing/evuvVnwxGC-HC8t6imBtr/confirm> ご連絡：support@lexor.jp

※本ガイドの数字・仕様はすべて2026年6月時点のものです。料金・助成金の最新条件は、各公式ページおよび管轄の労働局で必ずご確認ください。

無料30分オンライン相談を受け付けています

「自社の場合どう進めればいいのか」を、御社の状況に合わせて具体的にご提案します。売り込みはいたしません。

📅 予約：<https://app.spirinc.com/patterns/availability-sharing/evuvVnwxGC-HC8t6imBtr/confirm>

✉️ support@lexor.jp / 🌐 <https://claudelab.jp>